

「ごんぎくん」レポート ～南吉よもやま話～

第20回

「ごんぎつね」人気の理由

新美南吉記念館で開催中の特別展「教科書で出会ったごん」（10月23日まで）から、南吉作品の教材化の歴史についてご紹介する2回目。今回は、どうして「ごんぎつね」はすべての教科書で長年採用され続けているのか、その人気の理由を考えてみます。

① **巧みな物語展開と心情描写を通して、登場人物の気持ちの移り変わりを読み取ることができる。**

物語は、ごんの行動が意外な結果につながるという出来事をテンポよく繰り返します。そのなかで、ごんの兵十に対する気持ち「反省」↓「同情」↓「共感」↓「償い」と変化し、最後には「愛」にまで高まる様子を、子どもたちは文章を通してわかりやすく、共感をもって読みとっていくことができます。

② **美しい情景描写、比喩表現を通して、優れた文学表現の仕方を学ぶことができる。**

例 「いいお天気で、遠く向こうにはお城の屋根瓦が光っています。墓地には、ひがん花が、赤い布のようにさきつづいていました。と、村の方から、カーン、カーンと鐘が鳴ってききました。葬式の出る合図です。／やがて、白い着物を着た葬列のものがちがやつてくるのがちらちら見えはじめました。話し声も近くなりました。」

遠景から近景へと視点を移しながら、真っ赤な彼岸花と葬式の白装束で鮮やかなコントラストを描いています。聴覚の効果も利用して、美しく臨場感あふれる描写になっています。

③ **感想を発表し合うことで、他人の異なる意見に触れ、自**

「ごんぎつね」は、自分を他人との関係から見られるようになる4年生が、文学を通して人の気持ちを読み取るのに最適な教材なんだね！



分の読みを深めていくことができます。

最後の章で、兵十に「ごん、お前だったのか。」と言われたごんは目をつぶったままだなぞくだけで、ごんの気持ちは書かれていません。また、「青い煙が、まだ筒口から細く出ていました。」と余韻を残す形で物語が閉じられます。こうした象徴的な表現は、多様な読み方を可能にします。ごんは嬉しいと思っているのか、そもそもごんの気持ちは兵十に伝わったのか、子どもたちの読み方は様々です。その異なる意見に耳を傾け、自分の意見を伝えようと努力すること、それぞれの読みが深まっていくのです。

住宅対象侵入盗 今年は忍込みが多発!

半田署管内では住宅を対象とした空き巣、忍び込みなどの被害が多発しています。被害の多くは無施錠の窓から侵入されています。

- ・就寝時は玄関、窓を閉め、確実な戸締まりを!
- ・センサーライトや警報装置・補助錠等の防犯グッズを活用しましょう!
- ・不審者や不審な車を見たときには110番通報を!

半田警察署 ☎21-0110

勝手口のスライドガラスにも鍵を掛けましょう!
スライドの部分の網戸を破り、勝手口の鍵を開けて侵入しています。

